

## 内科学第三

### 著書

- 1) 小林祥泰：脳血管性痴呆の治療．三木哲郎，大内尉義，井藤英喜編：日常診療に活かす老年病ガイドブック4：認知症・うつ・睡眠障害の診療の実際，メジカルビュー社，東京，135-144，2005
- 2) 山口修平：1. 神経内科医としてのサバイバル．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，1-1，2005
- 3) 山口修平：2. 神経学的病歴と身体診察．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，2-18，2005
- 4) 山口修平：3. 神経解剖の解説．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，9-24，2005
- 5) 山口修平：4. 神経画像．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，25-39，2005
- 6) 山口修平：5. 神経学的診断手技．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，40-57，2005
- 7) ト蔵浩和：6. 脳卒中．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，58-80，2005
- 8) ト蔵浩和：7. 代表的な脳卒中試験の解説．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，81-101，2005
- 9) ト蔵浩和：8. 神経集中治療ユニット．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，102-128，2005
- 10) 長井 篤：9. てんかん発作．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，129-136，2005
- 11) 長井 篤：10. 精神状態の変容．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，137-148，2005
- 12) 長井 篤：11. めまいと失調．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，149-159，2005
- 13) 長井 篤：12. 急性視覚障害．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，160-170，2005
- 14) 長井 篤：13. 脊髄圧迫．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，171-179，2005
- 15) 飯島献一：14. 脱力．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，180-193，2005
- 16) 飯島献一：15. 頭痛．WM 臨床研修サバイバルガイド：神経内科，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京，194-209，2005

- 17) 小黒浩明: 16. 中枢神経系感染症. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 210-230, 2005
- 18) 小黒浩明: 17. 末梢神経炎, WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 231-243, 2005
- 19) 小黒浩明: 18. 多発性硬化症. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 244-256, 2005
- 20) 小黒浩明: 19. 運動系疾患. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 257-271, 2005
- 21) 小黒浩明: 20. 痴呆性疾患. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 272-286, 2005
- 22) 高橋一夫: 21. 腰痛. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 287-294, 2005
- 23) 高橋一夫: 22. 悪性腫瘍. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 295-304, 2005
- 24) 高橋一夫: 23. 睡眠障害. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 305-314, 2005
- 25) 高橋一夫: 付録. WM 臨床研修サバイバルガイド: 神経内科, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 317-385, 2005
- 26) 小林祥泰: 脳卒中急性期患者データベースの開発経緯と現状. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 中山書店, 東京, 2-5, 2005
- 27) 小林祥泰: 脳卒中急性期患者データベースにおける標準化項目. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 東京, 中山書店, 6-9, 2005
- 28) 小林祥泰: 脳卒中急性期患者データベース入力画面. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 中山書店, 東京, 10-15, 2005
- 29) 高橋一夫, 小林祥泰: オザグレールと脳保護薬(エダラボン)併用療法. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 中山書店, 東京, 86-87, 2005
- 30) 小林祥泰: わが国における血栓溶解療法の現状. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 中山書店, 東京, 96-97, 2005
- 31) 山口修平, 高橋一夫, 小林祥泰: 血栓溶解療法と脳保護薬(エダラボン)併用療法. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 東京, 中山書店, 98-99, 2005
- 32) 岡田和悟: 発症前抗血栓薬服用と脳出血重症度の関係. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 中山書店, 東京, 116-117, 2005
- 33) 井川房夫, 小林祥泰: 最新脳卒中データベースによるくも膜下出血の解析. 頻度, 転帰, 治療成績について. 小林祥泰編: 脳卒中データベース 2005, 中山書店, 東京, 132-134, 2005
- 34) Bokura H, Yamaguchi S, Kobayashi S: Dissociated process for implicit and explicit

recognition of novel events. S. Tsuji, S. Tobimatsu, R. Kakigi(eds): Unveiling the Mystery of the Brain: Neurophysiological Investigation of the Brain Function. ELSEVIER, Amsterdam, 377-380, 2005

- 35) 小林祥泰: 20. 血管性痴呆とは -最近の知見から. 平井俊策編: よくわかって役に立つ 痴呆症のすべて (改訂第2版). 永井書店, 東京, 297-316, 2005
- 36) ト蔵浩和, 小林祥泰: 高血圧による臓器障害のメカニズム「脳血管障害」. 岡芳知, 内山真一郎, 倉林正彦編: 生活習慣病の最前線, 中山書店, 東京, 262-265, 2005
- 37) 山口修平: 電気生理学的検査. 江藤文夫, 飯島節編: 神経内科学テキスト 改訂第2版, 南江堂, 東京, 114-120, 2005
- 38) ト蔵浩和, 小林祥泰: 3. クリティカルパスと脳卒中 EBM. 岡田靖: 専門医に学ぶ 脳卒中クリティカルパスと医療連携, メディカルレビュー社, 大阪, 22-25, 2005
- 39) 山口修平: 無症候性脳血管障害 (未破裂動脈瘤を除く). 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢: TODAY'S THERAPY 2006, 今日の治療指針, 医学書院, 東京, 651-653, 2005
- 40) 小林祥泰: 神経・筋疾患の治療の動向. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編: TODAY'S THERAPY 2006, 今日の治療指針, 医学書院, 東京, 623-623, 2005
- 41) 岡田和悟: 高血圧性脳症. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編: TODAY'S THERAPY 2006, 今日の治療指針, 医学書院, 東京, 647-648, 2005
- 42) 小林祥泰: 医局解体の意味するもの. 黒川清編: 医療白書, 日本医療企画, 東京, 45-51, 2005
- 43) 村川洋子: 筋炎症候群. 内科疾患診療マニュアル, 中外医学社, 東京, 991-995, 2005
- 44) 村川洋子: 臨床免疫学-基礎研究の進歩と最新の臨床-膠原病の臨床免疫学: 特発性炎症性疾患, 日本臨床 6 3 巻 増刊号 5 臨床免疫学 (下), 日本臨床社, 大阪, 300-304, 2005
- 45) Yamaguchi S: Novelty-related brain response and its clinical applications. Barbar C, Tsuji S, Tobimatsu S, Uozumi T, Akamatsu N(eds): Functional Neuroscience: Evoked Potentials and Related Techniques, Elsevier, Amsterda, 67-74, 2006
- 46) ト蔵浩和, 小林祥泰: XIV. 無症候性脳梗塞, 山門實編: ここまでわかってきた最新の生活習慣病健診と対策のすべて -診断からフォローアップまで-, ライフ・サイエンス・センター, 横浜, 259-261, 2006
- 47) 高橋一夫, 小林祥泰: 脳梗塞, 山口 徹, 堀正二編: 循環器疾患最新の治療 2006-2007, 南江堂, 東京, 401-407, 2006
- 48) 高橋一夫, 小林祥泰: 高血圧性脳症. 小林祥泰, 水澤英洋編: 神経疾患最新の治療 2006-2008, 南江堂, 東京, 276-278, 2006
- 49) 近藤正宏, 村川洋子: 多発性筋炎・皮膚筋炎. 小林祥泰, 水澤英洋編: 神経疾患最新の治療. 2006-2008, 南江堂, 東京, 249-252, 2006
- 50) 小林祥泰: 脳卒中. 荻原俊男(監修): 予防とつきあい方シリーズ 老年病・認知症~長

寿の秘訣～，メディカルレビュー社，東京，99-100，2006

- 51) 高橋一夫(訳): 脳血管障害. 福井次矢, 黒川清編: ハリソン内科学 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2447-2468, 2006
- 52) 小林祥泰, ト蔵浩和: 脳梗塞にはどんな人がなりやすいか. Evidence に基づく日本人脳梗塞患者の医療ガイドライン策定に関する研究班編: 脳梗塞とはどんな病気? 日本脳卒中協会, 大阪, 8-12, 2006
- 53) 小林祥泰, ト蔵浩和: 日本人の脳梗塞の変遷. Evidence に基づく日本人脳梗塞患者の医療ガイドライン策定に関する研究班編: 脳梗塞とはどんな病気?, 日本脳卒中協会, 大阪, 18-22, 2006
- 54) 高橋一夫, 小林祥泰: 高血圧性脳症. 田村晃, 松谷雅生, 清水輝夫編: EBM に基づく脳神経疾患の基本治療指針 改訂第2版, メジカルビュー社, 東京, 59-64, 2006
- 55) 長井 篤, 小林祥泰: 脳アミロイドアンギオパチー. 田村晃, 松谷雅生, 清水輝夫編: EBM に基づく脳神経疾患の基本治療指針 改訂第2版, メジカルビュー社, 東京, 2006
- 56) 小林祥泰: 脳卒中一般. 井林雪郎編: ファーマナビゲーター 脳卒中編, メディカルレビュー社, 東京, 416-420, 2006
- 57) ト蔵浩和: CT や MRI で無症候性脳梗塞をみつけた場合、どうしたらよいか? -全例に抗血小板薬を投与したほうがよいか? -. 井林雪郎編: ファーマナビゲーター 脳卒中編, メディカルレビュー社, 東京, 478-481, 2006
- 58) 小林祥泰: 神経分野 監訳. 黒川清, 福井次矢編: ハリソン内科学 日本語版 第2版, 東京, 2006
- 59) 小林祥泰: 最新の本邦脳卒中の傾向ー脳卒中データバンクよりー. 篠原幸人編: 脳卒中ー基礎研究と臨床の最前線ー (別冊・医学の歩み), 医歯薬出版株式会社, 東京, 49-53, 2006
- 60) 小林祥泰: 脳卒中と認知症-血管性認知症-. 山口武典, 岡田靖編: 三報社, 大阪, 253-262, 2006
- 61) 小黒浩明, 小林祥泰: 消化器系合併症の管理. 永山正雄, 濱田潤一編: 神経救急・集中治療ハンドブック, 医学書院, 東京, 336-341, 2006
- 62) ト蔵浩和, 小林祥泰: 体液酸塩基平衡の管理. 永山正雄, 濱田潤一編: 神経救急・集中治療ハンドブック, 医学書院, 東京, 342-346, 2006
- 63) 小林祥泰: 高齢者の痴呆. 金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政夫編: 内科学, 医学書院, 東京, 23-25, 2006
- 64) 小林祥泰: 痙攣. 金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政夫編: 内科学, 医学書院, 東京, 179-182, 2006
- 65) 小林祥泰: 失神. 金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政夫編: 内科学, 医学書院, 東京, 182-184, 2006

- 66) 小林祥泰：高齢者の痴呆。金澤一郎，北原光夫，山口 徹，小俣政男編：内科学，医学書院，東京，23-25，2006
- 67) 小林祥泰：痙攣。金澤一郎，北原光夫，山口 徹，小俣政男編：内科学，医学書院，東京，179-182，2006
- 68) 小林祥泰：失神。金澤一郎，北原光夫，山口 徹，小俣政男編：内科学，医学書院，東京，182-184，2006

#### 学術論文

- 1) Bokura H, Yamaguchi S, Kobayashi S: Event-related potentials for response inhibition in Parkinson's disease. *Neuropsychologia* 43: 967-975, 2005
- 2) Okada K, Kobayashi S: 3. The Present State of Acute Ischemic Stroke Therapy in Japan. *Internal Medicine* 44: 365-368, 2005
- 3) Aoyama K, DM. Burns, SW. Suh, P. Garnier, Matsumori Y, Shiina H, RA. Swanson: Acidosis causes endoplasmic reticulum stress and caspase-12-mediated astrocyte death. *J Cereb Blood Flow Metab* 25: 358-370, 2005
- 4) Yamaguchi S, Bokura H, Toyoda G, Yamagata S, Matsubara M, Takahashi K, Oguro H, Oka T, Kobayashi S: Prefrontal contribution to novelty detection and its implication in behavioral disorders. *Proceedings of the First International Conference on Complex Medical Engineering*: 724-729, 2005
- 5) Kobayashi S, Matsumoto M: Therapeutic Strategy for Acute Stroke -Prologue for an Epoch of Brain Attack-. *Internal Medicine* 44: 360-374, 2005
- 6) Kumakura S. Hemophagocytic syndrome. *Internal Medicine* 44:278-80, 2005
- 7) Takahashi K, Yamaguchi S, Kobayashi S, Yamamoto Y: Effects of Aging on Regional Cerebral Blood Flow Assessed By Using Technetium Tc 99m Hexamethylpropyleneamine Oxime Single-Photon Emission Tomography with 3D Stereotactic Surface Projection Analysis. *Am JNeuroradiol*, 2005 26: 2005-2009
- 8) Nakashima A, Kumakura S, Mishima S, Ishikura H, Kobayashi S: IFN- Enhances TNF-induced Apoptosis Through Down-regulation of C-Myc Protein Expression in HL-60 Cells. *Journal of Experimental and Clinical Cancer Research*, 24:447-456, 2005
- 9) Nagai A, Mishima S, Ishida Y, Ishikura H, Harada T, Kobayashi S, Seung U.Kim: Immortalized human microglial cell line : Phenotypic expression. *Journal of Neuroscience Research*, 81: 342-348, 2005
- 10) Suh SW, Aoyama K, Matsumori Y, Liu J, Swanson RA: Pyruvate administered after severe hypoglycemia reduces neuronal death and cognitive impairment. *Diabetes*, 54: 1452-1458, 2005
- 11) Matsumori Y, Hong SM, Aoyama K, Fan Y, Kayama T, Sheldon RA, Vexler ZS, Ferriero DM, Weinstein PR, Liu J: Hsp70 overexpression sequesters AIF and reduces neonatal

hypoxic/ischemic brain injury. J Cereb Blood Flow Metab, 25: 899-910, 2005

- 12) Nagai A, Jae K. Ryu, Terashima M, Tanigawa Y, Wakabayashi K, James G. McLarnon, Kobayashi S, Masuda J, Seung U. Kim: Neuronal cell death induced by cystatin C in vivo and in cultured human CNS neurons is inhibited with cathepsin B. Brain Research, 1066: 120-128, 2005
- 13) Nomura E, Kohriyama T, Matsumoto M, Kobayashi S, Japan Standard Stroke Registry Study (JSSRS) Group: Clinical characteristics of first-ever atherothrombotic infarction or lacunar infarction with hyperlipidemia (J-STARS-C): An analysis of data from the stroke data bank of Japan. Internal Medicine, 44: 1252-1257, 2005
- 14) Shiotsuki H, Ogushi Y, Fushimi K, Kobayashi S: Evaluation of applied cases of thrombolytic therapy against ultra-acute ischemic stroke. Using the Japanese Standard Stroke Registry Database. Tokai J Exp Clin Med, 30: 49-62, 2005
- 15) 岡田和悟: 四、血栓溶解療法. 日本医事新報: 20-21, 2005
- 16) 岡田和悟: 五、血管性精神症状. 日本医事新報: 21-22, 2005
- 17) 岩田裕子: 外来高齢者における身体機能・抑うつ気分のパワーリハビリテーションによる改善効果について. Home Care MEDICINE 6: 33, 2005
- 18) 恒松徳五郎: 膠原病の皆さんへ. すくらむ 3: 13, 2005
- 19) 高橋一夫, 小林祥泰: Restless legs syndrome にはドーパミンアゴニストやクロナゼパム. 治療 3月増刊号 87: 1212-1214, 2005
- 20) 高橋一夫, 小林祥泰, 脳卒中標準登録研究班: 急性期脳卒中データベースから見た日本人の特徴. クリニカルプラクティス 24: 2-6, 2005
- 21) 高橋一夫, 小林祥泰, 脳卒中標準登録研究班 JSSRS group: 本邦の脳卒中の現況と変遷-脳卒中データベースより. 成人病と生活習慣病 35: 391-398, 2005
- 22) 山口修平: 七、脳卒中後の神経可塑性. 日本医事新報: 22-23, 2005
- 23) 山口修平: 神経内科からみた視野異常 -その診断のポイント-. 神経眼科 22: 38-46, 2005
- 24) 山口拓也, 梅枝伸行, 岡田和悟, 杉原正樹, 中野晃伸: 塩酸ゲフィチニブ投与にて奏効が得られたが髄膜癌腫症にて死亡した肺癌の1剖検例. 島根医学 25: 46-47, 2005
- 25) 小黒浩明: 六、脳卒中と嚥下障害. 日本医事新報: 22, 2005
- 26) 小黒浩明, 松井龍吉, 河野直人, 小林祥泰: こむらがえりには芍薬甘草湯. 治療 3月増刊号 87: 1215-1217, 2005
- 27) 小黒浩明, 山口修平, 坂根理絵子, 卜蔵浩和, 小林祥泰: 進行性核上性麻痺(PSP)における認知機能・情動の経年変化. 認知神経科学 7: 66-69, 2005
- 28) 小林祥泰: 無症候性脳梗塞の治療は必要かどうか教えてください. 治療 87: 160-161, 2005
- 29) 小林祥泰: オフィスの健康管理術4 活性酸素と食品の抗酸化作用. 市場戦略 4: 30,

2005

- 30) 小林祥泰: 閃輝性暗点症の治療法について教えてください. あたらしい眼科 04' 臨時増刊号 21: 209-211, 2005
- 31) 小林祥泰: Alzheimer 病の眼症状の特徴について教えてください. あたらしい眼科 04' 臨時増刊号 21: 212-214, 2005
- 32) 小林祥泰: 合併症を伴う高血圧の降圧目標と降圧薬の選択: 脳血管障害・痴呆. 臨床と研究 82: 91-95, 2005
- 33) 小林祥泰: 脳卒中治療ガイドライン. からだの科学: 100-105, 2005
- 34) 小林祥泰: 脳血管性うつ状態とアパシー. Medical Tribune 38: 36-36, 2005
- 35) 小林祥泰: 抑うつと無気力(アパシー). 老年精神医学雑誌 16: 16-23, 2005
- 36) 小林祥泰: 脳卒中標準データベースの有用性. 脳神経外科ジャーナル 14: 3-9, 2005
- 37) 小林祥泰: [脳梗塞の治療・急性期治療の進歩] 急性期脳梗塞の病態. 日本医師会雑誌 133: 627-630, 2005
- 38) 小林祥泰: 脳出血後の脳梗塞予防と抗血栓療法. 日本医事新報: 106-107, 2005
- 39) 小林祥泰: 脳ドックからみた脳卒中予防. 中山間地域アメニティー 1: 51-54, 2005
- 40) 小林祥泰: 最新の本邦脳卒中の傾向 -脳卒中データバンクより-. 医学のあゆみ 212: 577-581, 2005
- 41) 小林祥泰: 痴呆性疾患の主要症候: 脳血管性痴呆. 臨床と研究 82: 24-29, 2005
- 42) 小林祥泰: 臨床医学の展望 神経病学 -血管系を中心に-. 日本医事新報: 18-24, 2005
- 43) 小林祥泰: 三、無症候性脳血管障害. 日本医事新報: 20, 2005
- 44) 小林祥泰: 脳卒中データバンク(JSSRS)を活用した臨床研究の可能性. J-STARS News Letter: 3, 2005
- 45) 小林祥泰: 脳梗塞急性期治療. 動脈硬化予防 4: 76-79, 2005
- 46) 小林祥泰: 高齢化とともに増加する心原性脳塞栓. 治療学 39: 56, 2005
- 47) 小林祥泰: オフィスの健康管理術6 ビールとレッド・アイ. 市場戦略 6: 22, 2005
- 48) 小林祥泰: Stroke 2005 -脳卒中学の統合をメインテーマに- (脳卒中データバンク) 心原性脳塞栓が約 20%まで増加. Medical Tribune: 4, 2005
- 49) 小林祥泰: 脳の老化予防. ANTI-AGING MEDICINE 1: 74-78, 2005
- 50) 小林祥泰: 遊ぶように仕事し、仕事するように遊べ. 臨床のあゆみ 64: 1, 2005
- 51) 足立智英: 一、脳卒中と高血圧. 日本医事新報: 18-19, 2005
- 52) 中谷久恵, 上岡澄子, 鈴木真貴子, 安部富美子, 大国豊子, 吉岡みち子, 小林祥泰: 特定機能病院の地域医療連携センターを利用した患者の追跡調査による在宅ケアの要因分析. 島根医科大学紀要 27: 1-5, 2005
- 53) 長井 篤: Kennedy-Alter-Sung 病 (球脊髄性筋萎縮症). 今日の治療指針 2005 年版 47: 652-653, 2005

- 54) 長井 篤: 八、脳卒中再生医療・分子生物学的治療. 日本医事新報: 23-24, 2005
- 55) ト蔵浩和, 小林祥泰, Japanese Standard Stroke Registry Study (JSSRS) Group: 糖尿病と脳卒中:疫学およびその特徴. 糖尿病医療スタッフの PRACTICE 22: 34-37, 2005
- 56) ト蔵浩和, 小林祥泰: 神経内科との連携. CLINICAL PRACTICE 24: 47-50, 2005
- 57) ト蔵浩和: 二、脳血管障害の危険因子(高血圧以外). 日本医事新報: 19-20, 2005
- 58) ト蔵浩和, 小林祥泰: 脳血管障害合併高齢者高血圧. 日本臨床 63: 1029-1032, 2005
- 59) 野原隆彦, 米原満子, 小林祥泰: 健康診断における胸部X線撮影時の被ばく線量. CAMPUS HEALTH 42: 81-86, 2005
- 60) 小林祥泰: (連載・痴呆をどう診るか?) 誌上ディベート: 自発性低下、無気力、抑うつをどうみるか 神経内科医としての立場から. Cognition and Dementia, 4: 70-74, 2005
- 61) 小黒浩明, 山口修平, 安部哲史, ト蔵浩和, 小林祥泰: 急性開散麻痺をきたした Fisher 症候群の 1 例. 臨床神経学, 45: 524-526, 2005
- 62) 小黒浩明, 山口修平, 高橋一夫, 飯島献一, 長井 篤, ト蔵浩和, 小林祥泰: アルツハイマー病における 1H-MRS と海馬面積の関連. 老年精神医学雑誌, 16: 847-852, 2005
- 63) 小林祥泰: 血管性痴呆における血栓症の病態学的意義について教えてください. 血栓と循環, 13: 138-140, 2005
- 64) 小林祥泰: 脳卒中データバンクとその意義. 循環器科, 57: 402-409, 2005
- 65) ト蔵浩和: アルコールによる臓器障害 アルコールによる末梢神経障害. Medicina, 42: 1550-1552, 2005
- 66) 平松由美子, 古家寛司, 岡田和悟, 山森祐治, 佐々木晃: 熱中症から急速に全身性炎症反応症候群(SIRS), 血管内凝固症候群(DIC), 多臓器機能不全症候群(MODS)をきたすも集中管理により救命し得た 1 例. 島根医学, 25: 54-58, 2005
- 67) 足立智英, 小林祥泰: アテローム血栓性脳梗塞とラクナ梗塞の治療. カレントセラピー, 23: 55-59, 2005
- 68) ト蔵浩和, 小林祥泰: 脳血管障害. Molecular Medicine, 42: 262-265, 2005
- 69) 高橋一夫, 飯島献一, 小黒浩明, ト蔵浩和, 長井 篤, 山口修平, 小林祥泰: 急性期脳梗塞に対する経静脈的組織プラスミンノーゲンアクチベーター(t-PA)投与例の検討. 脳と神経, 57: 683-688, 2005
- 70) 高橋一夫, 小林祥泰: ベッドサイドでの脳血管疾患の捉えかたと診察のしかた. Medical Practice, 22: 1535-1539, 2005
- 71) 門脇秀和, 山口修平, ト蔵浩和, 飯島献一, 小林祥泰: 脳梗塞患者における微小脳出血の経時的変化の検討. 脳卒中, 27: 311-316, 2005
- 72) 小黒浩明, 山口修平, 安部哲史, ト蔵浩和, 小林祥泰: 開散麻痺と両側性外転神経麻痺の鑑別 -VTR での計測法をもちいて-. 臨床神経学, 45: 767, 2005
- 73) 新田美鈴, 齊藤洋司, 小林祥泰: 島根大学医学部附属病院緩和ケアセンターの現状と



今後の課題. 島根医学, 25: 15-18, 2005

- 74) 卜蔵浩和, 小黒浩明, 山口修平, 飯島献一, 高橋一夫, 豊田元哉, 渡辺達三, 小林祥泰: 極端な偏食により脚気をくり返した1例. 島根医学, 25: 65-68, 2005
- 75) 山口修平, 坂根理絵子, 小黒浩明, 高橋一夫, 飯島献一, 長井 篤, 卜蔵浩和, 小林祥泰: 前頭葉実行機能に対する情動障害(うつ、アパシー)の影響 -Frontal Assessment Battery を用いた検討-. 認知神経科学, 7: 256-260, 2005
- 76) 小林祥泰: 虚血性脳血管障害の治療 -Brain attack 時代の幕開け-. 神経治療学, 22: 703-707, 2005
- 77) 小林祥泰: 脳卒中データバンク. 脳卒中, 27: 469-473, 2005
- 78) Oguro H, Kobayashi S, Takahashi K, Abe S, Toyoda G, Iijima K, Bokura H, Yamaguchi S: Effect of one-shot intravenous 0.42 mega unit urokinase therapy in patients with acute ischemic stroke. *Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases*, 15: 8-13, 2006
- 79) Aoyama K, Matsubara K, Kobayashi S: Aging and oxidative stress in progressive supranuclear palsy. *European Journal of Neurology*, 13: 89-92, 2006
- 80) Aoyama K, Suh SW, Hamby AM, Liu J, Chan WY, Chen Y, Swanson RA: Neuronal glutathione deficiency and age-dependent neurodegeneration in the EAAC1 deficient mouse. *Nature Neuroscience*, 9: 119-126, 2006
- 81) Bokura H, Kobayashi S, Yamaguchi S, Iijima K, Nagai A, Toyoda G, Oguro H, Takahashi K: Silent brain infarction and subcortical white matter lesions increase the risk of stroke and mortality: A prospective cohort study. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases*, 15: 57-63, 2006
- 82) Yamaguchi S, Yamagata S, Bokura H, Toyoda G, Nagai A, Takahashi K, Kobayashi S: Somatosensory disinhibition and frontal alien hand signs following medial frontal damage. *Journal of Clinical Neuroscience*, 13: 279-282, 2006
- 83) Pirson AS, Borgh T, Laere KV, Takahashi K, Yamaguchi S: Age and gender effects on normal regional cerebral blood flow. *Am J Neuroradiology*, 27: 1161-1163, 2006
- 84) Chigusa Y, Kawakami K, Shimada M, Kurahashi H, Matsuda H: Hospital-acquired oral myiasis due to *Boettcherisca septentrionalis* (Diptera: Sarcophagidae) in Shimane prefecture, Japan. *Medical Entomology and Zoology*, 57: 139-143, 2006
- 85) Oguro H, Yamaguchi S, Abe S, Ishida Y, Bokura H, Kobayashi S: Differentiating Alzheimer's disease from subcortical vascular dementia with the FAB test. *Journal of Neurology*, 253: 1490-1494, 2006
- 86) Ishida Y, Nagai A, Kobayashi S, Kim SU: Upregulation of protease-activated receptor-1 in astrocytes in Parkinson disease: astrocyte-mediated neuroprotection through increased levels of glutathione peroxidase. *J Neuropathol Exp Neurol*, 65: 66-77, 2006
- 87) Kono S, Suzuki H, Takahashi K, Takahashi Y, Shirakawa K, Murakawa Y, Yamaguchi S,

- Miyajima H: Hepatic iron overload associated with a decreased serum ceruloplasmin level in a novel clinical type of aceruloplasminemia. *Gastroenterology*, 131: 240-245, 2006
- 88) Kobayashi S, Japan Stroke Scale Registry Study Group : International stroke registry International Experience in Stroke Registry Japanese Stroke Databank. *American Journal of Preventive Medicine* . 31: 240-242, 2006
- 89) Anne-Sophie Pirson, Thierry Vander Borgh, Koen Van Laere, Takahashi K, Yamaguchi S: Age and Gender Effects on Normal Regional Cerebral Blood Flow. *AJNR Am J Neuroradiol* 27: 1161-1163, 2006
- 90) 小林祥泰: 脳卒中 (EBM は臨床現場を変えることができたか) . *EBM ジャーナル*, 7: 51-55, 2006
- 91) 山口修平: 神経年齢 (特集 アンチエイジングでは何を検査するのか?) . *アンチ・エイジング医学 (日本抗加齢医学会雑誌)*, 2: 32-37, 2006
- 92) ト蔵浩和, 小林祥泰, 山口修平, 高橋一夫, 飯島献一, 長井 篤, 小黒浩明: 糖尿病合併脳卒中の臨床的特徴と予後 -Japanese Standard Stroke Registry Study (JSSRS) の結果より-. *脳と神経*, 58: 135-139, 2006
- 93) 小林祥泰: 脳卒中データバンク (ブレインアタック理解のために) . *Medicina*, 43: 211-213, 2006
- 94) 近藤正宏, 村川洋子: 混合性結合組織病 (自己免疫疾患に伴う神経障害) . *Clinical Neuroscience*, 24: 22-23, 2006
- 95) 高橋一夫, 小林祥泰: 血圧は低すぎると, 脳梗塞を起こしやすいのか? *治療*, 88: 946-947, 2006
- 96) 高橋一夫, 小林祥泰: 脳梗塞急性期に free radical scavenger は有効なのか? *治療*, 88: 1115-1118, 2006
- 97) 高橋一夫, 小林祥泰: メタボリックシンドロームと脳血管障害. *クリニカ*, 33: 16-18, 2006
- 98) 鏡谷武雄, 七戸秀夫, 黒田敏, 石川達哉, 岩崎喜信, 小林祥泰: 脳卒中データバンクを利用したくも膜下出血の解析 -発症年齢, 性差, 予後における全国・地域別の検討 -. *脳卒中の外科*, 34: 49-53, 2006
- 99) 江幡敦子, 竹川英宏, 大門康寿, 小林祥泰: アテローム血栓性梗塞の早期治療は予後改善に有効であるか? -脳卒中急性期患者データベースを用いた検討-. *Dokkyo Journal of Medical Sciences*, 33: 105-110, 2006
- 100) 山口修平: 認知機能と事象関連電位. *認知神経科学*, 8: 50-55, 2006
- 101) 小林祥泰: 脳卒中一般 (特集 脳卒中治療ガイドライン) . *JSA News*, 2-3, 2006
- 102) 小林祥泰: 9 .まとめ (第 33 回 内科学の展望: 高齢化時代の内科学) . *日本内科学会雑誌*, 95: 50-51, 2006
- 103) 高橋一夫, 小林祥泰: めまい, 専門医はこう診ている -神経内科の立場から-. *治療*,

- 88: 1449-1454, 2006
- 104) 高橋一夫, 小林祥泰: 動脈硬化の診断マーカー・検査と意義 MRI. 循環器科 特別増刊号 動脈硬化のすべて, 59: 328-338, 2006
- 105) 卜蔵浩和, 小林祥泰: 脳梗塞の危険因子. 循環器科, 59: 431-434, 2006
- 106) 長井 篤, 野津吉友, 福間恵美, 寺嶋正治, 山口修平, 柴田宏, 益田順一: プロテアーゼとプロテアーゼインヒビター -髄液中システインプロテアーゼおよびシスタチンC濃度と中枢神経疾患の関連性-. 島根医学検査, 34: 1-8, 2006
- 107) 小林祥泰: 脳卒中の最近の動向 -脳卒中データバンクより-. 診断と治療, 94: 928-932, 2006
- 108) 松井龍吉, 小林祥泰: 再発した胸水貯留に対し五苓散が有効であった1症例. 日本東洋医学雑誌, 57: 339-344, 2006
- 109) 小林祥泰: 脳梗塞急性期治療の breakthrough. 神経治療学, 23: 93-95, 2006
- 110) 小林祥泰: t-PA 療法は日本の脳梗塞治療を変えられるか -脳卒中データバンクからの推定-. 成人病と生活習慣病. 36: 500-503, 2006
- 111) 佐藤幸恵, 小黒浩明, 村上陽, 安部哲史, 山口修平, 小林祥泰: 食道内 pH モニターによる Sarpogrelate の胃食道逆流抑制効果の検討 —経管栄養施行下の神経疾患高齢患者における pilot study—. 日本老年医学会雑誌, 43: 492-497, 2006
- 112) 小林祥泰: 第2回 脳卒中診療で求められる地域医療ネット. Japan Medicine 2006/5/17号: 1-1, 2006
- 113) 山口修平, 卜蔵浩和, 小黒浩明, 高橋一夫: タラソセラピー(海洋療法)による脳活性化の評価システムの構築. 島根難病研究所 平成17年度研究事業報告集: 26-31, 2006
- 114) 小林祥泰, 山口修平, 卜蔵浩和, 飯島献一, 高橋一夫, 長井 篤: 脳卒中および痴呆の発症機序に関する研究. 島根難病研究所 平成17年度研究事業報告集, 50-61, 2006
- 115) 小林祥泰: アルガトロバンと岡本彰祐先生. EAST STUDY NEWS (急性期脳梗塞薬物療法研究会会報), 9: 1-1, 2006
- 116) 小林祥泰: オフィスの健康管理術10 チョコレートの効用 フランス女性は太らない. 市場戦略: 14-14, 2006
- 117) 小林祥泰: 緑陰随筆 非真面目な明治維新. 日本医事新報, 4293: 114-114, 2006
- 118) 卜蔵浩和, 小林祥泰: 高血圧管理からみた脳卒中の予防と治療 脳卒中急性期の血圧管理. 日本臨牀, 64: 374-377, 2006
- 119) 種村 純, 伊藤元信, 大槻美佳, 河村 満, 熊倉勇美, 小島善次, 小林祥泰, 他12名: 高次脳機能障害全国実態調査報告. 高次脳機能研究, 26: 89-98, 2006
- 120) 小林祥泰: 急増する脳梗塞. 安心, 24: 90-98, 2006
- 121) 山口修平, 卜蔵浩和, 高橋一夫: 脳血管障害の治療の進歩 (特集/神経疾患治療

- の進歩(2005年)). 神経治療学, 23: 357-360, 2006
- 122) 小林祥泰: 脳卒中データバンクの意義(特集2/脳卒中治療の変革“Brain Attack 時代”の幕開け), 脳 21, 9: 53-57, 2006
- 123) 小林祥泰: 脳卒中今昔物語. 先進医療年報, 7, 7-9, 2006
- 124) 小林祥泰: アトルバスタチンの用量については今後の検討が必要. Medical Tribune (2006年9月21日) 74-74, 2006
- 125) 長井 篤, 益田順一, 山口修平, 小林祥泰: 骨髄間葉系幹細胞による脳出血再生医療(特集/臨床への可能性を探る脳卒中再生医療の最先端)分子脳血管病. 5: 33-39, 2006
- 126) 高橋一夫, 高橋 勉, 池田繭子, 小林祥泰, 単純ヘルペス脳炎(ここがポイント! 脳卒中と紛らわしい病態の鑑別). 分子脳血管病, 5: 113-118, 2006
- 127) 山口修平, 松原美和: 釣藤散(XI. 治療動向 治療薬の概要 漢方薬). 日本臨牀 増刊号, 64: 612-616, 2006
- 128) 小林祥泰: 我が国の「脳卒中データバンク」の意義と今後の展開(I. 総説). 日本臨牀 増刊(インターベンション時代の脳卒中学(改訂第2版)上), 64: 25-31, 2006
- 129) 小林祥泰: 脳卒中一般(VIII. 診断・治療に関するガイドライン 脳卒中治療ガイドライン2004). 日本臨牀 増刊(インターベンション時代の脳卒中学(改訂第2版)上), 64: 265-269, 2006
- 130) 小林祥泰: 血管性認知症では釣藤散が第1選択になる. MMJ, 2: 955-955, 2006
- 131) 小林祥泰: 編集後記. 神経治療, 23: 558-558, 2006
- 132) ト蔵浩和, 小林祥泰: 検診(脳ドックなど)による脳卒中予防の役割と実際. 老年医学 Geriatric Medicine, 44: 1423-1426, 2006
- 133) 豊田元哉, 山口修平: 脳卒中と脳血管性認知症. 老年医学 Geriatric Medicine, 44: 1427-1432, 2006
- 134) 小林祥泰: いきいきマイライフ第23回「やる気」が脳を若返らせる. まいんど, 18: 9-11, 2006
- 135) 村川洋子: 膠原病の薬物治療-免疫抑制薬の重要性と問題点-. すくらむ, 5-18, 2006
- 136) 小林祥泰: 脳梗塞一般 脳梗塞の分類と病型別頻度(脳血管障害各論 I. 脳梗塞). 日本臨牀 増刊(インターベンション時代の脳卒中学(改訂第2版)下), 64, 7-10, 2006
- 137) 大櫛陽一, 小林祥泰, JSSRS: 高血圧治療基準の検証. 性差と医療. 3: 1327-1334, 2006
- 138) 小林祥泰: 書評(脳卒中急性期治療とリハビリテーション). 内科, 98: 1046-1046, 2006
- 139) 門脇秀和, 松井龍吉, 須山信夫, 小林祥泰: 高齢で発見された高IgE症候群(Job症候群). 島根医学, 26: 27-31, 2006

- 140) 小林祥泰: アパシー(意欲低下)と認知機能. 認知神経科学: 8, 165-168, 2006
- 141) ト蔵浩和: 前頭葉機能と事象関連電位. 認知神経科学, 8: 216-221, 2006
- 142) 小林祥泰: 脳卒中治療成績編 チーム医療 救命の鍵 私はこう読む. 日経新聞 06/12/24, 11-11, 2006
- 143) 永井良三, 松澤佑次, 小林祥泰, 生坂政臣: 内科の分化と統合<座談会>(特集 内科診療最前線 2007-この1年の動向を踏まえて). 内科, 98: 1075-1085, 2006
- 144) 高橋一夫, ト蔵浩和, 飯島献一, 長井 篤, 山口修平, 小林祥泰: メタボリック シンドロームと脳梗塞発症における男女差. 脳卒中, 28: 527-530, 2006
- 145) 小林祥泰, 山浦 晶: 脳卒中とメタボリックシンドローム(司会のことば). 脳 卒中, 28, 519-519, 2006
- 146) 小黒浩明: 神経疾患における経頭蓋磁気刺激の研究およびリハビリテーション治 療への応用, 平成 17 年度 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究推進事業 研究報告集, 159-165, 2006
- 147) 守屋里織, 足立智英, 後藤 淳, 荒川千晶, 溝井令一, 高木 誠: テント上 Branch atheromatous disease (BAD)の画像所見と予後. 脳卒中, 28: 504-509, 2006
- 148) 山口修平: 無症候性脳梗塞の意義と対策. 島根医学, 26: 212-220, 2006
- 149) 高橋 勉, 馬庭泰久, 津村弘人, 石倉浩人, 山口修平: 特発性血小板減少性紫斑 病に対する Helicobacter pylori 除菌療法の有用性の検討. 島根医学, 26: 46-52, 2006
- 150) 檜垣雄治, 山口修平: MRI により 6 年半にわたり経時的に観察し得た、脳梗塞後 の遷延化凝固壊死の 1 例. 島根医学, 26: 59-63, 2006

## 学会発表

- 1) Takahashi K, Yamaguchi S, Kobayashi S, Oka T: Brain activation during the retrieval of paired association memory: effects of memory load. Asian and Oceanian Symposium on Clinical Neurophysiology, Chiang Mai, February 2005
- 2) Kobayashi S, Inatomi Y, Nakagawara J, Suzuki A, Kashiwabara K, Tominaga T, Yamasaki M, Hashimoto Y, Yamamoto Y, K. Okada, Takagi M, Abumiya T, Araki N, Tanahashi N, JSSRS group: Pretreatment with antithrombotic therapy may reduce risk for progressing stroke in acute ischemic stroke patients. 30th International Stroke Conference, New Orleans, February 2005
- 3) Bokura H, Kobayashi S, Yamaguchi S, Nagai A, Iijima K, Takahashi K, Oguro H: Silent brain infarcts and white matter lesions were associated with subsequent stroke and vascular death: Long-term prospective study. 30th International Stroke Conference, New Orleans, February 2005
- 4) 小林祥泰: 脳血管性うつ状態について. 第 6 回日本咬合学会岐阜大会, 岐阜, 2005 年 2 月

- 5) Bokura H, Kobayashi S, Yamaguchi S, Nagai A, Iijima K, Takahashi K, Oguro H: Influence of silent brain infarcts and periventricular hyperintensity on motor ability in healthy elderly people. 1st Meeting of Asian Stroke Forum, Tokyo, March 2005
- 6) Iijima K, Kobayashi S, Yamaguchi S, Bokura H, Nagai A: Autoregulation of cerebral blood flow and postural changes of blood pressure in acute ischemic stroke. 1st Meeting of Asian Stroke Forum, Tokyo, March 2005
- 7) Kobayashi S, JSSRS group: Stroke situation in Japan. 1st Meeting of Asian Stroke Forum, Tokyo, March 2005
- 8) 高橋一夫, 門脇秀和, 飯島献一, 山口修平, 小林祥泰: 拡散強調画像で両側被殻の外側部に異常高信号を認めた低血糖性昏睡の1例. 第28回日本脳神経 CI 学会総会, 高松, 2005年3月
- 9) 小林祥泰: (シンポジウム) 内科学、統合性と専門分化をどう両立させるか(パネルディスカッション) 内科専門医・認定医のあり方. 第102回日本内科学会講演会, 大阪, 2005年4月
- 10) 高橋一夫: (シンポジウム) 顔と名前の記憶想起に関する機能的MRI. 第15回中・四国老年期痴呆研究会, 高松, 2005年4月
- 11) 小林祥泰, JSSRS Group 脳卒中標準登録研究班: (シンポジウム) 脳卒中データバンク. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 12) 卜蔵浩和, 小林祥泰, 高橋一夫, 飯島献一, 小黒浩明, 長井 篤, 山口修平: 糖尿病を基礎に持つ脳卒中の特徴と予後: 脳卒中データバンクによる検討. 第102回日本内科学会講演会, 大阪, 2005年4月
- 13) 長井 篤, 寺嶋正治, 竹内浩美, 谷河精規, 村川洋子, 益田順一, 小林祥泰: 神経・筋疾患生検筋における a disintegrin and metalloprotease (ADAM) 12 発現の免疫組織化学的検討. 第102回日本内科学会講演会, 大阪, 2005年4月
- 14) 井川房夫, 小林祥泰, 穴戸尚, 森竹浩三, 渡辺高志, 川上伸, 中岡光生, 加川隆登, 金澤泰久, 阿武雄一: 山陰地方脳動脈瘤の疫学調査. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 15) 熊井康敬, 脇坂義信, 有廣昇司, 鴨打正浩, 大星博明, 北園孝成, 八尾博史, 小林祥泰, 井林雪郎, 飯田三雄: 全国脳卒中急性期患者における脳梗塞病型の性別, 年齢階級別頻度ならびに予後(JSSRS). 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 16) 江幡敦子, 竹川英宏, 平田幸一, 小林祥泰, JSSRS group: 脳卒中データバンクを用いた栃木県央部における来院方法, 発症来院時間の検討. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 17) 高橋一夫, 小林祥泰, 山口修平, 飯島献一, 卜蔵浩和: 急性期脳卒中データベースを用いたオザグレル単独療法と併用療法. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月

- 18) 細見直永, 納谷貴之, 河野雅和, 小林祥泰, Japan Standard Stroke Registration Study Group (日本脳卒中協会脳卒中データバンク部門): 脳出血の危険因子としての飲酒, 喫煙. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 19) 若林規良, 長井 篤, 小林祥泰: ラット一過性脳虚血モデル急性期におけるヒト由来不死化骨髄間葉系幹細胞株移植. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 20) 酒向正春, 堀智勝, 小林祥泰: 急性期脳梗塞患者 13204 例における外科的治療の現状: JSSRR Study. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 21) 小黒浩明, 小林祥泰, 高橋一夫, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平: 急性期脳梗塞患者における UK42 万単位経静脈単回投与の効果. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 22) 柏原健一, 大野学, 小林祥泰, JSSRS: 病型別にみた脳血管狭窄性病変と重症度・予後. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 23) 卜蔵浩和, 小林祥泰, 山口修平, 長井 篤, 飯島献一, 小黒浩明, 高橋一夫: 健常高齢者における運動能力の経年的変化に与える無症候性脳血管病変の影響. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 24) 井川房夫, 小林祥泰, Japan Standard Stroke Registry Study Group: 脳卒中データバンクによるくも膜下出血の解析. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 25) 佐藤美, 山村修, 林浩嗣, 栗山勝, 小林祥泰: 脳室周囲高信号域と脳卒中危険因子の関係. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 26) 細見直永, 納谷貴之, 河野雅和, 小林祥泰, Japan Standard Stroke Registration Study Group (日本脳卒中協会脳卒中データバンク部門): 心原性脳塞栓症における抗凝固薬による治療効果の評価-JSSRS. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 27) 庄島正明, 永田和哉, 西原哲浩, 落合慈之, 小林祥泰: Factors affecting the prognosis of aneurysmal subarachnoid hemorrhage. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 28) 大木宏一, 棚橋紀夫, 鈴木則宏, 小林祥泰: 初発脳卒中患者の重症度・予後の検討～脳卒中データバンクより～. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 29) 仲地耕, 豊田一則, 岡田靖, 瀧下修一, 小林祥泰, JSSRS Group: 多施設登録研究にみる脳梗塞の急性期進行: JSSRS 研究. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 30) 豊田一則, 仲地耕, 岡田靖, 小林祥泰, JSSRS Group: 多施設登録研究にみる脳梗塞の急性期再発: JSSRS 研究. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 31) 豊田元哉, 山口修平, 門脇秀和, 小林祥泰: 脳梗塞患者における無症候性微小出血の経年的危険因子の検討. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月
- 32) 野村栄一, 郡山達男, 松本昌泰, 小林祥泰: 心原性脳塞栓症におけるヘパリンおよびエダラボンの使用の現況とその有効性. 第30回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005年4月

月

- 33) 林浩嗣, 山村修, 佐藤万美子, 栗山勝, 小林祥泰: 白質高信号域と虚血性脳卒中の重症度, 予後についての検討. 第 30 回日本脳卒中学会総会, 盛岡, 2005 年 4 月
- 34) Yamaguchi S, Bokura H, Toyoda G, Yamagata S, Matsubara M, Takahashi K, Oguro H, Oka T, Kobayashi S: Prefrontal contribution to novelty detection and its implication in behavioral disorders. The First International Conference on Complex Medical Engineering, Takamatsu, May 2005
- 35) 小黒浩明, 豊田元哉, 村川洋子, 山口修平, 小林祥泰: 血管炎性ニューロパチーのしびれに対し牛車腎気丸が奏効した 1 例. 第 10 回島根中医学会, 出雲, 2005 年 5 月
- 36) 小林祥泰: 虚血性脳血管障害の薬物療法(急性期から慢性期へ). 第 25 回日本脳神経外科コンgres総会, 小倉, 2005 年 5 月
- 37) 豊田元哉, 山口修平, 飯島献一, 小黒浩明, 小林祥泰: 遷延性意識障害を呈した急性脳炎の 1 例. 第 19 回島根てんかん研究会, 出雲, 2005 年 5 月
- 38) 小黒浩明, 山口修平, 卜蔵浩和, 小林祥泰: FAB によるアルツハイマー型老年痴呆 (SDAT) と脳血管性痴呆 (VD) の鑑別. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 39) 小林祥泰: 脳梗塞急性期の実態. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 40) 長井 篤, 梅枝伸行, 石田由利, 下手公壱, 益田順一, 小林祥泰: 大脳白質障害における cystatin C の発現. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 41) 渡辺達三, 長井 篤, 小林祥泰: ラット一過性中大脳動脈閉塞モデルにおけるヒト神経幹細胞株の移植と血管新生. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 42) 豊田元哉, 山口修平, 卜蔵浩和, 狩野賢二, 田中延子, 小林祥泰: 事象関連電位を用いた歩行時危険察知能力の客観的測定の有用性. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 43) 伊藤義彰, 棚橋紀夫, 小林祥泰, 鈴木則宏: 「日本脳卒中協会脳卒中データバンク」にみる脳卒中急性期死亡例の解析. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 44) 山口拓也, 本郷恵美, 梅枝伸行, 岡田和悟, 土江洋二, 杉原正樹, 小林祥泰: 水頭症で発症した肺癌によるび慢性髄膜癌腫症 (DMLC) の検討. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 45) 飯島献一, 小林祥泰, 山口修平, 卜蔵浩和: 脳梗塞患者における脳循環自動調節能と大脳白質病変との関連. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 46) 卜蔵浩和, 小林祥泰, 山口修平, 飯島献一: 無症候性脳血管病変の脳卒中, 心血管死に関する影響. 第 46 回日本神経学会総会, 鹿児島, 2005 年 5 月
- 47) 卜蔵浩和, 小黒浩明, 山口修平, 飯島献一, 高橋一夫, 豊田元哉, 渡辺達三, 小林祥泰: 極端な偏食によりビタミン B1 欠乏症 (脚気) をくり返した 1 例. 第 92 回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2005 年 6 月
- 48) 高橋一夫, 安部哲史, 飯島献一, 山口修平, 小林祥泰: 塩酸プラミペキソールが有効



- であった Restless legs syndrome (RLS) /Periodic limb movement disorder (PLMD) の 1 例. 第 23 回日本神経治療学会総会, 鳥羽, 2005 年 6 月
- 49) 小林祥泰: 虚血性脳血管障害の治療-Brain Attack 時代の幕開け-. 第 23 回日本神経治療学会総会, 鳥羽, 2005 年 6 月
- 50) 渡辺達三, 小黒浩明, 山口修平, 小林祥泰: ステロイドパルス療法が著効したヘルペス脳幹脳炎の一例. 第 23 回日本神経治療学会総会, 鳥羽, 2005 年 6 月
- 51) 小黒浩明, 佐藤幸恵, 安部哲史, 飯島献一, 山口修平, 小林祥泰, 村上陽: 食道内 pH モニターによる Sarpogrelate の胃食道逆流抑制効果の検討. 第 47 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2005 年 6 月
- 52) 高橋一夫: 急性期脳卒中標準データベースによるキサソボン注の評価. 第 10 回脳卒中診療とインターネット研究会, 出雲, 2005 年 6 月
- 53) 豊田元哉, 山口修平, 飯島献一, 長井 篤, 石田由利, 小林祥泰: 末梢神経障害を合併した CADASIL の 1 例. 第 78 回日本神経学会中国・四国地方会, 岡山, 2005 年 6 月
- 54) 山口修平: (シンポジウム) 認知機能と事象関連電位. 第 10 回認知神経科学学会学術集会, 京都, 2005 年 7 月
- 55) 小林祥泰: 高齢者における無症候性脳梗塞と転倒. 第 14 回日本脳ドック学会総会, 名古屋, 2005 年 7 月
- 56) 小林祥泰: 無症候性脳血管障害の長期予後と対応. 第 14 回日本脳ドック学会総会, 名古屋, 2005 年 7 月
- 57) 卜蔵浩和, 小林祥泰, 山口修平, 長井 篤, 飯島献一, 小黒浩明, 高橋一夫: 脳ドックでの説明を受診者は理解できているか? 第 14 回日本脳ドック学会総会, 名古屋, 2005 年 7 月
- 58) 高橋一夫, 山口修平, 小林祥泰, 岡 達郎: Association memory 課題における記憶時の脳賦活と加齢の影響について. 第 10 回認知神経科学学会学術集会, 京都, 2005 年 7 月
- 59) 小黒浩明, 山口修平, 坂根理絵子, 高橋一夫, 卜蔵浩和, 小林祥泰: 神経ベーチェット病における罹病期間と認知機能の関連. 第 10 回認知神経科学学会学術集会, 京都, 2005 年 7 月
- 60) 山口修平: (教育講演) 注意・記憶機能における前頭葉の役割. 第 19 回老年期痴呆研究会, 東京, 2005 年 7 月
- 61) 安部哲史: (シンポジウム) 地域医療と医学教育. 第 5 回中国ブロック地域医療研究会, 出雲, 2005 年 9 月
- 62) 福田 準, 三瀧慎吾, 木谷光博: 全身痙攣発作で発症し、興奮せん妄、失語を呈した左海馬梗塞の 1 例. 第 23 回島根脳血管障害研究会, 出雲, 2005 年 9 月
- 63) 岡田和悟, 梅枝伸行, 山口拓也: 虚血性脳血管障害再発例の病期・病型別検討. 第 23 回島根脳血管障害研究会, 出雲, 2005 年 9 月

- 64) 渡辺達三, 山口修平, 小林祥泰, 石倉浩人, 馬庭泰久: 慢性骨髄単球性白血病の急性転化に合併した脳梗塞の1例. 第23回島根脳血管障害研究会, 出雲, 2005年9月
- 65) 飯島献一: 急性期脳梗塞の診断と治療. 第24回山陰救急医学会, 出雲, 2005年9月
- 66) 高橋一夫, 渡辺達三, 豊田元哉, 小黒浩明, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平, 小林祥泰: 血栓性脳梗塞におけるオザグレルナトリウム投与日数と短期予後. 第7回中国四国脳卒中研究会, 松山, 2005年9月
- 67) 高橋 勉, 津村弘人, 井上政弥, 小林祥泰, 馬庭泰久, 三島清司, 三島聡子, 並河徹, 石倉浩人: 当院における high risk 非ホジキンリンパ腫に対する up-front autoPBSCT 併用大量化学療法の有効性(第2報). 第67回日本血液学会・第47回日本臨床血液学会・合同総会, 横浜, 2005年9月
- 68) 井上政弥, 津村弘人, 高橋 勉, 馬庭泰久, 小林祥泰, 熊倉俊一, 石倉浩人: 同一クローン由来と考えられる de novo 急性骨髄性白血病と多発性骨髄腫の一合併例. 第67回日本血液学会・第47回日本臨床血液学会・合同総会, 横浜, 2005年9月
- 69) 坂根理絵子, 山口修平, 小黒浩明, 高橋一夫, 飯島献一, 卜蔵浩和, 豊田元哉, 小林祥泰: Stroop 干渉効果に対する大脳白質病変の影響. 第29回日本神経心理学会総会, 京都, 2005年9月
- 70) 渡辺達三, 山口修平, 小林祥泰, 丸山信之, 森竹浩三: 特発性正常圧水頭症の tap test における認知機能障害評価について. 第29回日本神経心理学会総会, 京都, 2005年9月
- 71) 渡辺達三, 高橋一夫, 卜蔵浩和, 山口修平: 抗甲状腺薬内服中に ANCA 関連肥厚性硬膜炎を合併したバセドウ病の1例. 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 72) 門脇秀和, 松井龍吉, 須山信夫, 小林祥泰: 見逃されていた高齢者高 IgE 症候群(Job syndrome). 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 73) 桐田由季子, 岡田和悟, 梅枝伸行, 山口拓也: 自発性低下・傾眠で発症し Alzheimer 病と考えられていた MPO-ANCA 関連血管炎の1例. 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 74) 川上耕史, 門脇秀和, 松井龍吉, 須山信夫, 山本健志, 小林祥泰: 落雷による電撃傷にて一過性の下肢単麻痺を来した1例. 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 75) 井上政弥, 津村弘人, 石倉浩人, 高橋 勉, 小林祥泰, 馬庭泰久: HIV 及び human herpes virus 8 (HHV-8) 共に陰性の primary effusion lymphoma (PEL) の1例. 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 76) 高橋 勉, 小林祥泰, 井上政弥, 石倉浩人, 馬庭泰久: 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) に対する Helicobacter pylori (HP) 除菌療法の検討. 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月

- 77) 平松由美子, 赤木収二, 岡田和悟, 岡本栄祐, 角田力: 吐血を契機に胃癌が発見されたベーチェット病の1例. 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 78) 池田繭子, 近藤正宏, 村川洋子, 小林祥泰: リウマチ性多発筋痛症(PMR)様症状で発症し, 大量 グロブリン療法が奏功した顕微鏡的結節性多発動脈炎(MPA)の1例. 第93回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 79) 高橋一夫, 山口修平, 岡 達郎, 小林祥泰: 連合記憶時の脳賦活と加齢の影響について -fMRI study-. 第8回ニューロイメージング実道, 2005年10月, 松江
- 80) 飯島献一, 豊田元哉, 卜蔵浩和, 山口修平: 起立性低血圧を伴い血行力学的一過性脳虚血発作を繰り返す左内頸動脈閉塞症の一例, 第17回日本老年医学会中国地方会, 宇部, 2005年10月
- 81) 小坂実, 梶谷幸作, 窪太壱, 卜蔵浩和, 山口修平, 六井淳: 随伴性陰性変動を用いた発話タイミング特定に関する研究. 電気・情報関連学会中国支部連合大会, 福山, 2005年10月
- 82) Oka T, Tsumori T, Yokota S, Kishi T, Nagai A, Yasui Y: Projection fibers from the central amygdaloid nucleus make synapses with the midbrain periaqueductal gray neurons that project to the nucleus retroambiguus in the rat. 35th annual meeting of Society of Neuroscience, Washington DC, USA, November 2005
- 83) Bokura H, Yamaguchi S: Neural correlates for successful and unsuccessful response inhibition in a stop-signal task. 35th annual meeting of society for neuroscience, Washington DC, USA, November 2005
- 84) 小黒浩明, 山口修平, 須山信夫, 飯島献一, 小林祥泰: 音刺激による瞳孔面積変化と情動の関連について. 第43回日本神経眼科学会総会, 別府, 2005年11月
- 85) 窪太壱, 梶谷幸作, 小坂実, 卜蔵浩和, 山口修平, 六井淳: 主成分分析に基づく脳特徴空間生成に関する研究. The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Hiroshima Student Symposium, 岡山, 2005年11月
- 86) 飯島献一, 山口修平, 卜蔵浩和, 長井 篤, 小林祥泰: 頸動脈狭窄病変を合併した意識消失発作患者における起立負荷に伴う血圧変動と脳循環自動調節能の検討. 第17回日本脳循環代謝学会総会, 名古屋, 2005年11月
- 87) 豊田元哉, 山口修平, 卜蔵浩和, 小林祥泰: 事象関連電位を用いた歩行時危険察知能力評価の有用性. 第35回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, 2005年11月
- 88) 卜蔵浩和: (シンポジウム) 前頭葉機能研究の最前線 1) 事象関連電位による前頭葉抑制機能研究. 第35回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, 2005年12月
- 89) 高橋一夫, 山口修平, 岡 達郎, 小林祥泰: 連合記憶課題における想起時の脳賦活と加齢の影響について. 第35回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, 2005年12月
- 90) 飯島献一, 山口修平, 小林祥泰: Head-up tilt 起立負荷試験による自律神経機能の評価 -Tone-entropy 法を用いた検討-. 第1回中国・四国 Vascular フォーラム学術講演

会，松山，2005年12月

- 91) 渡辺達三，山口修平，小林祥泰，石倉浩人，馬庭泰久：慢性骨髓単球性白血病の急性転化に合併した脳梗塞の一例．第79回日本神経学会中国・四国地方会，松山，2005年12月
- 92) Takahashi K, Iijima K, Bokura H, Nagai A, Yamaguchi A, Kobayashi S: Increasing Silent Brain Infarction Induces Cognitive Decline: 10-year Follow-up Study. International Stroke Conference 2006, Kissimmee, Florida, February 2006
- 93) Kobayashi S, JSSRS group: Difference of Stroke Subtype in Japan and China -From Japanese Stroke Databank. Tiantan International Stroke Conference 2006, Beijing, June 2006
- 94) 高橋一夫，ト蔵浩和，飯島献一，長井 篤，山口修平，小林祥泰：メタボリックシンドロームと脳梗塞の発症-脳ドック追跡調査における検討-．第40回日本成人病(生活習慣病)学会，東京，2006年1月
- 95) 井上政弥，山口修平，池田繭子，高橋 勉，津村弘人，石倉浩人：進行期悪性黒色腫に自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を施行した1例．第28回日本造血細胞移植学会総会，東京，2006年2月
- 96) 高橋 勉，小林祥泰，井上政弥，津村弘人，石倉浩人，馬庭泰久：汎発性腹膜炎合併後メシル酸イマチニブで寛解状態を維持し RIST を施行しえた Ph 陽性 ALL の一例．第28回日本造血細胞移植学会総会，東京，2006年2月
- 97) 近藤正宏，池田繭子，村川洋子，山口修平：インフリキシマブ投与後に生じた敗血症に対し血漿交換療法が有効であった RA の1例．第25回山陰リウマチ性疾患研究会，松江，2006年2月
- 98) 池田繭子，近藤正宏，村川洋子，山口修平：大量 グロブリン+血漿交換併用療法が奏効した難治性皮膚筋炎の1例．第25回山陰リウマチ性疾患研究会，松江，2006年2月
- 99) 大塚哲也，吉川尚秀，谷島伸二，村田雅明，河野龍之助，馬庭泰久：診断、治療に難渋した嫌気性菌による大腿化膿性筋膜炎の1例．第25回山陰リウマチ性疾患研究会，松江，2006年2月
- 100) 高橋一夫，ト蔵浩和，飯島献一，長井 篤，山口修平，小林祥泰：(シンポジウム)メタボリック・シンドロームの危険因子数と男女別の脳梗塞発症リスク．第31回日本脳卒中学会総会，横浜，2006年3月
- 101) ダシュデムベレル・ナラントヤ，長井 篤，若林規良，渡邊達三，小林祥泰，山口修平：中大脳動脈閉塞モデルラットにおけるヒトミクログリア細胞株移植実験．第31回日本脳卒中学会総会，横浜，2006年3月
- 102) ト蔵浩和，小林祥泰，山口修平，飯島献一，高橋一夫，小黒浩明，長井 篤，豊田元哉，若林規良：健常高齢者の転倒にかかわる要因と無症候性脳血管病変の検討．第31回日本脳卒中学会総会，横浜，2006年3月

- 103) 足立智英, 後藤淳, 守屋里織, 荒川千晶, 村井麻衣子, 高木誠, 溝井令一: 脳出血再発に関連する因子の検討. 第 31 回日本脳卒中学会総会, 横浜, 2006 年 3 月
- 104) Oka T, Takahashi K, Yamaguchi S: Neural basis for insight in problem solving. 2006 Annual meeting of cognitive neuroscience society, San Francisco, USA, April 2006
- 105) 門脇秀和, 松井龍吉, 須山信夫, 小林祥泰: 95 歳以上の超高齢健常者における頭部 CT 所見とその臨床的意義に関する検討. 第 103 回日本内科学会講演会, 横浜, 2006 年 4 月
- 106) 長井 篤, シェク・アブドラ, 寺嶋正治, 村川洋子, 小林祥泰, 益田順一, 山口修平: 神経・筋疾患における a disintegrin and metalloprotease (ADAM), NCAM 発現の検討. 第 103 回日本内科学会講演会, 横浜, 2006 年 4 月
- 107) 角田佳子, 杉浦智子, 川口鎮司, 川本学, 勝又康弘, 副島誠, 菅野朗子, 柝本明子, 益田郁子, 高木香恵, 原まさ子, 鎌谷直之(東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター): 膠原病の肺病変における肺サーファクタント蛋白遺伝子多型. 第 50 回日本リウマチ学会総会, 長崎, 2006 年 4 月
- 108) 近藤正宏, 村川洋子, 池田繭子, 小林祥泰: Infliximab 投与後に生じた敗血症に対し、血漿交換療法が有効であった関節リウマチの一例. 日本リウマチ学会総会, 長崎, 2006 年 4 月
- 109) 池田繭子, 村川洋子, 近藤正宏, 小林祥泰: 大量 グロブリン+血漿交換併用療法が奏効した、難治性皮膚筋炎の一例. 日本リウマチ学会総会, 長崎, 2006 年 4 月
- 110) 山口修平: (特別講演) ERP と fMRI による前頭葉機能研究. 第 24 回日本生理心理学会大会, 広島, 2006 年 5 月
- 111) 足立智英, 守屋里織, 後藤淳, 荒川千晶, 村井麻衣子, 高木誠, 溝井令一: テント上 Branch atheromatous disease の画像所見の特徴. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 112) 守屋里織, 足立智英, 村井麻衣子, 荒川千晶, 溝井令一, 後藤淳, 高木誠: 椎骨動脈解離の画像所見の変化と予後. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 113) 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平, 小林祥泰: 意識消失発作患者の自律神経機能の評価-Tone-entropy 法を用いた検討-. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 114) 荒川千晶, 後藤淳, 守屋里織, 足立智英, 村井麻衣子, 高木誠, 溝井令一, 渡辺健太郎, 菊池隆秀, 大橋洋綱, 山崎一人, 折笠英紀, 高尾昌樹: 臍帯血移植後 HHV-6 辺縁系脳炎を発症し拡散強調画像で病変を認めた 3 例. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 115) シェクアブドラ, 長井 篤, Ryu Jae, 益田順一: Lysophosphatidylcholine の脳内へ及ぼす影響. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 116) 若林規良, 長井 篤, シェクアブドラ, 益田順一, 石田由利, 小林祥泰, 山口修平: ラット脳虚血モデル急性期に対するヒト胎児由来不死化骨髄間葉系幹細胞株

- (HB-10) 移植. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 117) 渡辺達三, 長井 篤, 若林規良, 山口修平: ラット一過性脳虚血モデルへの神経幹細胞株移植による COX-2 発現抑制. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 118) 豊田元哉, 山口修平, 卜蔵浩和, 小林祥泰: 事象関連電位を用いた歩行時危険察知能力の客観的測定の有用性. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 119) 高橋一夫, 卜蔵浩和, 飯島献一, 長井 篤, 山口修平, 小林祥泰: 無症候性脳梗塞の増加による認知機能低下への影響. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 120) 鈴木均, 河野智, 高橋一夫, 村川洋子, 山口修平, 石川邦子, 高橋良知, 白川健太郎, 宮嶋裕明: 血清中にアポ蛋白のみ認めた無セルロプラスミン血症の遺伝子発現解析. 第 47 回日本神経学会総会, 東京, 2006 年 5 月
- 121) 豊田元哉, 飯島献一, 山口修平: 痙攣発作を合併した PML の 1 例. 第 20 回島根てんかん研究会, 出雲, 2006 年 5 月
- 122) 高橋一夫: メタボリックシンドロームと脳梗塞について. 第 11 回脳卒中診療とインターネット研究会, 出雲, 2006 年 5 月
- 123) 小林祥泰, 卜蔵浩和: (シンポジウム)無症候性脳梗塞(脳出血)、白質病変の MRI 診断と対応小委員会. 第 15 回日本脳ドック学会総会, 東京, 2006 年 6 月
- 124) 高橋 勉, 長濱道治, 山口修平, 馬庭泰久, 井上政弥, 石倉浩人: 髄膜浸潤を来した IgG 型多発性骨髄腫の 1 例. 第 94 回日本内科学会中国地方会, 出雲, 2006 年 6 月
- 125) 若林規良, 卜蔵浩和, 村川洋子, 山口修平: 著明な自律神経障害を呈したシェーグレン症候群合併ギランバレー症候群の 1 例. 第 94 回日本内科学会中国地方会, 出雲, 2006 年 6 月
- 126) 檜垣雄治, 山口修平: 軽度の頭痛のみを呈したスノーボードによる若年性慢性硬膜下血腫の 1 例. 第 94 回日本内科学会中国地方会, 出雲, 2006 年 6 月
- 127) 田中真美, 飯島献一, 若林規良, 山口修平: 半側空間失認及び病態失認患者に対する注意力向上のための取り組み. 第 48 回日本老年医学会学術集会, 石川, 2006 年 6 月
- 128) 松井龍吉, 門脇秀和, 須山信夫, 山口修平, 小林祥泰: 95 歳以上の超高齢健常者における脳萎縮とその臨床的意義に関する検討. 第 48 回日本老年医学会学術集会, 石川, 2006 年 6 月
- 129) 飯島献一, 山口修平, 高橋一夫, 卜蔵浩和, 小林祥泰: 当科における 1 年間の急性期脳梗塞患者の年齢分布、発症-来院時間、在院日数、病型及び予後. 第 48 回日本老年医学会学術集会, 石川, 2006 年 6 月
- 130) 檜垣雄治, 山口修平: CT にて高吸収域が残存し、脳梗塞後の遷延化凝固壊死 (CN) が疑われた一例. 第 80 回日本神経学会中国・四国地方会, 岡山, 2006 年 6 月

- 131) 豊田元哉, 山口修平, 卜蔵浩和, 飯島献一, 高橋一夫, 若林規良: ネフローゼ症候群の治療中に発症し、けいれんを伴った進行性多巣性白質脳症の1例. 第80回日本神経学会中国・四国地方会, 岡山, 2006年6月
- 132) 梅枝伸行, 山口拓也, 岡田和悟: 頭部MRIにて大脳白質病変の改善をみた間歇型一酸化炭素中毒の1例. 第80回日本神経学会中国・四国地方会, 岡山, 2006年6月
- 133) 卜蔵浩和, 山口修平, 小林祥泰, 高橋一夫, 飯島献一: メタボリックシンドロームの無症候性脳血管病変に与える影響-高血圧との比較-. 第15回日本脳ドック学会総会, 東京, 2006年6月
- 134) 山口修平, (シンポジウム)高橋一夫, 卜蔵浩和, 飯島献一, 長井 篤, 小林祥泰: 無症候性脳梗塞と認知機能低下 -脳ドックでのフォロー研究-(指定). 第15回日本脳ドック学会総会, 東京, 2006年7月
- 135) 小林祥泰: (教育講演)アパシー、抑うつと認知機能. 第11回認知神経科学学会学術集会, 東京, 2006年7月
- 136) 卜蔵浩和: (シンポジウム)前頭葉機能と事象関連電位. 第11回認知神経科学学会学術集会, 東京, 2006年7月
- 137) 渡辺達三, 長井 篤, 若林規良, 石田由利, 小林祥泰, 山口修平: ヒト神経幹細胞株移植による炎症抑制効果:ラット中大脳動脈モデルでの検討. 第24回日本神経治療学会総会, 神奈川, 2006年7月
- 138) 高橋一夫, 小黒浩明, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平, 熊倉俊一, 山口拓也: 月1回のステロイド髄注が有効である再発を繰り返すループス髄膜炎の1例. 第24回日本神経治療学会総会, 神奈川, 2006年7月
- 139) 足立智英, 後藤淳, 守屋里織, 荒川千晶, 村井麻衣子, 高木誠, 溝井令一: 脳出血再発と血圧, 降圧薬の検討. 第24回日本神経治療学会総会, 神奈川, 2006年7月
- 140) 高橋一夫, 小林祥泰, 山口修平, 卜蔵浩和, 飯島献一, 長井 篤: 無症候性脳梗塞の病変部位と認知機能の変化 -脳ドック追跡調査による検討-. 第11回認知神経科学学会学術集会, 東京, 2006年7月
- 141) 松井龍吉, 小林祥泰: 急性膵炎後の巨大仮性膵嚢胞に対し、柴胡桂枝湯が有効であった1症例. 第17回日本東洋医学会中四国支部島根県部会学術総会講演会, 出雲, 2006年7月
- 142) 高橋 勉: 高 ca 血症を繰り返す多発性骨髄腫の一例. 山陰 MM 講演会, 米子, 2006年8月
- 143) 三瀧真悟, 福田 準, 木谷光博: 当院における rt-PA の使用状況について. 第24回島根脳血管障害研究会, 出雲, 2006年9月
- 144) 飯島献一, 若林規良, 豊田元哉, 高橋一夫, 小黒浩明, 卜蔵浩和, 山口修平, 小林祥泰: t-PA を投与した超急性期脳梗塞6症例の検討. 第24回島根脳血管障害研究会, 出雲, 2006年9月

- 145) 岸野竜平, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平, 池田繭子, 村川洋子他: 中大脳動脈狭窄を伴う進行性脳血栓症を発症した抗リン脂質抗体症候群の一例. 第 24 回島根脳血管障害研究会, 出雲, 2006 年 9 月
- 146) 国村大樹, 岡田和悟, 梅枝伸行, 山口拓也, 高橋あんず: 機能的 MRI で証明しえた Isolated shoulder palsy の 1 例. 第 24 回島根脳血管障害研究会, 出雲, 2006 年 9 月
- 147) 飯島献一, 若林規良, 豊田元哉, 高橋一夫, 小黒浩明, 卜蔵浩和, 山口修平, 小林祥泰: 急性期脳卒中における脳卒中病院前診断の試み. 第 8 回中国四国脳卒中研究会, 高松, 2006 年 9 月
- 148) Bokura H, Yamaguchi S: (シンポジウム) Neural correlates for memory of novel events in human. 14th International Pharmaco-EEG Society Symposium, Minami Awaji, September 2006
- 149) 米原希実, 山本泰司, 坂根理絵子, 豊田元哉, 若林規良, 飯島献一, 高橋一夫, 卜蔵浩和, 山口修平: 局所脳血流量からみた前頭葉機能検査. 第 30 回日本神経心理学学会総会, 名古屋, 2006 年 9 月
- 150) 卜蔵浩和: (シンポジウム) 事象関連電位(ERP)を用いた大脳高次機能の研究. 第 30 回日本神経心理学学会総会, 名古屋, 2006 年 9 月
- 151) Iijima K, Takahashi K, Bokura H, Yamaguchi S, Kobayashi S: Early thrombolytic treatment of acute ischemic stroke screened with a prehospital stroke scale. The 6th Annual Meeting of International College of Geriatric Psychoneuropharmacology (ICGP)u, Hiroshima, October 2006
- 152) Oguro H, Iijima K, Bokura H, Yamaguchi S: Frontal executive function tests and regional cerebral blood flow. The 6th Annual Meeting of International College of Geriatric Psychoneuropharmacology (ICGP), Hiroshima, October 2006
- 153) Shiota Y, Nagai A, Yamaguchi S: Upregulation of protease-activated receptor-1 in astrocytes in parkinson disease. The 6th Annual Meeting of International College of Geriatric Psychoneuropharmacology (ICGP), Hiroshima, October 2006
- 154) 高橋 勉, 井上政弥, 津村弘人, 馬庭泰久, 川上耕史, 石倉浩人, 山口修平: B 細胞性悪性リンパ腫に対する Rituximab 24 時間持続投与法の安全性と有効性. 第 68 回 日本血液学会・第 48 回 日本臨床血液学会合同総会, 福岡, 2006 年 10 月
- 155) 小林祥泰: (シンポジウム 3) 地域医療の将来展望と日本農村医学会の氏名 地方大学の立場から一過疎農山村の地域医療を支援する大学の戦略一. 第 55 回日本農村医学会総会, 名古屋, October 2006
- 156) Iijima K, Takahashi K, Nagai A, Bokura H, Yamaguchi S, Kobayashi S: Prehospital assessment of acute stroke by rescue team members for early hospital arrival. Joint World Congress on Stroke: International Stroke Society, Mediterranean Stroke and Southern African



Stroke Foundation, Cape Town, South Africa, October 2006

- 157) Takahashi K, Iijima K, Bokura H, Nagai A, Yamaguchi S, Kobayashi S: The lesion site of silent brain infarction and the risk of cognitive decline: a nine-year follow-up study. Joint World Congress on Stroke: International Stroke Society, Mediterranean Stroke and Southern African Stroke Foundation, Cape Town, South Africa, October 2006
- 158) 川上耕史, 高橋 勉, 田中順子, 井上政弥, 石倉浩人: 当科における再発・難治 AML に対する FLAGM 療法の経験. 第 63 回山陰血液同好会, 出雲, 2006 年 10 月
- 159) 西香代子, 角田佳子, 池田繭子, 近藤正宏, 村川洋子, 山口修平: 混合性結合組織病に合併したマクロファージ活性化症候群の 1 例. 第 95 回日本内科学会中国地方会, 広島, 2006 年 10 月
- 160) 園山浩紀, 三宅隆明, 佐藤真理子, 三上千恵, 川上耕史, 高橋 勉, 田中順子, 井上政弥, 石倉浩人, 杉本利嗣: 高 Ca 血症を伴った慢性骨髄性白血病の 1 例. 第 95 回日本内科学会中国地方会, 広島, 2006 年 10 月
- 161) 家田麻紗, 池田繭子, 近藤正宏, 村川洋子, 豊田元哉, 山口修平: 全身倦怠感・筋痛で発症し、多発性筋炎に血管炎を合併した 1 例. 第 95 回日本内科学会中国地方会, 広島, 2006 年 10 月
- 162) 岸野竜平, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平, 池田繭子, 村川洋子: 中大脳動脈狭窄を伴う進行性脳血栓症を発症した抗リン脂質抗体症候群の 1 例. 第 95 回日本内科学会中国地方会, 広島, 2006 年 10 月
- 163) 向井俊貴, 井手宏明, 戸谷誠二, 漆谷義徳, 遠藤 章, 大居慎治: 初診時 HBs 抗原陰性であったが化学療法後 HBV の再活性化を来した 1 例. 第 95 回日本内科学会中国地方会, 広島, 2006 年 10 月
- 164) 井上誠也, 井手宏明, 戸谷誠二, 漆谷義徳, 遠藤 章, 大居慎治: 基礎疾患なく発症した後天性血友病 A の 1 症例. 第 95 回日本内科学会中国地方会, 広島, 2006 年 10 月
- 165) 若林規良, 飯島献一, 卜蔵浩和, 豊田元哉, 高橋一夫, 小黒浩明, 小林祥泰, 山口修平: 75 歳以上の高齢者における脳梗塞急性期 t-PA 使用経験. 第 18 回日本老年医学会中国地方会, 広島, 2006 年 10 月
- 166) 天野知香, 池田繭子, 近藤正宏, 村川洋子: 多臓器不全を来し、ステロイドパルス療法が著功した反応性関節炎の一例. 第 17 回日本リウマチ学会中四国支部集会, 徳島, 2006 年 10 月
- 167) 渡辺達三, 長井 篤, 小林祥泰, 山口修平: ラット一過性脳虚血モデルに対するヒト神経幹細胞移植: 脳虚血巣における炎症抑制効果. 第 4 回 “フリーラジカルと脳疾患” 西日本研究会学術集会, 大阪, 2006 年 11 月
- 168) 若林規良: 著明な wearing-off と発汗異常を呈した若年発症パーキンソン病の一例. 第 1 回 Shimane Neurology Forum, 出雲, 2006 年 11 月

- 169) 足立智英：呼称障害を主徴とする失語症を呈した右小脳出血の72歳，女性例．第30回日本高次脳機能障害学会総会，福岡，2006年11月
- 170) 吾郷真子，三宅隆明，多田裕子，三上千恵，川上耕史，井上政弥，高橋 勉，田中順子，石倉浩人：Asian Variant of intravascular large B-cell lymphoma の一例．第33回島根造血器腫瘍研究会，出雲，2006年11月
- 171) 大居慎治，井手宏明，遠藤 章，戸谷誠二，漆谷義徳：慢性骨髄性白血病の治療経過．第33回島根造血器腫瘍研究会，2006/11/17，出雲
- 172) 山口修平：（シンポジウム）前頭葉と記憶-神経内科の立場から．第30回日本高次脳機能障害学会総会，福岡，2006年11月
- 173) Nagai A, Watanabe T, S.Kim, Kobayashi S, Yamaguchi S: Anti-inflammatory effect of neural stem cell in rats after focal brain ischemia. The 3rd Japanese-Korean Joint Stroke Conference, Jeju, Korea, November 2006
- 174) 小田純一郎，有蘭公威，窪太壱，卜蔵浩和，山口修平，六井 淳：刺激先行陰性電位を用いた指導適性判定法．The 8th IEEE HISS，広島，2006年11月
- 175) 有蘭公威，小坂 実，卜蔵浩和，山口修平，六井 淳：随伴性陰性変動を用いた前発話時推定．The 8th IEEE HISS，広島，2006年11月
- 176) Yamaguchi S, Bokura H, Nagai A, Iijima K, Takahashi K, Kobayashi S: Metabolic syndrome is associated with silent brain infarction, but not with cognitive impairment. The 3rd Japanese-Korean Joint Stroke Conference, Jeju, Korea, November 2006
- 177) 山口修平：（シンポジウム）事象関連電位を用いた認知機能研究：前頭葉抑制機能の解析．第36回日本臨床神経生理学会学術大会，横浜，2006年11月
- 178) 卜蔵浩和，山口修平，豊田元哉：Go/NoGo 課題における前頭葉 high frequency oscillation の検討．第36回日本臨床神経生理学会学術大会，横浜，2006年11月
- 179) Oguro H, Martijn van Koningsbruggen, Robert D. Rafal, Yamaguchi S, Kobayashi S: Independent preparatory effects of an aging foreperiod and inhibition of return. XVI International Neuro-ophthalmology Society Meeting, Tokyo, November 2006
- 180) 豊田元哉，山口修平，卜蔵浩和，小林祥泰：事象関連電位を用いたパーキンソン病患者の転倒性の評価．第36回日本臨床神経生理学会学術大会，横浜，2006年11月
- 181) 岡 達郎，高橋一夫，山口修平：問題解決における洞察（インサイト）の神経基盤-fMRI を用いた検討．第36回日本臨床神経生理学会学術大会，横浜，2006年11月
- 182) 豊田元哉，山口修平，小黒浩明，若林規良，卜蔵浩和，飯島献一，村川洋子：脳卒中再発を繰り返す ANCA 関連血管炎の1例．第81回日本神経学会中国・四国地方会，岡山，2006年12月